Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 25第42号
2026年（令和八年） 1月30日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（1月22日～28日）の国際石油市場は、アゼルバイジャンの石油供給が中断する中、再びイラン情勢が緊迫、米国の大寒波・豪雪による需要もあり、強含みで推移した。

NYのWTI原油先物市場は、22日に反落の59.36ドルで始まったが、その後は、23日反発、週明け26日反落したものの、27日、28日続伸し、昨年9月以来の高値を記録63.21ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（3月渡し）も、前週（1月15日～21日）は62.20～62.90ドルの範囲で推移したが、当週は、1月22日63.70ドル、23日63.10ドル、26日64.30ドル、27日61.40ドル、28日62.80ドルだった。

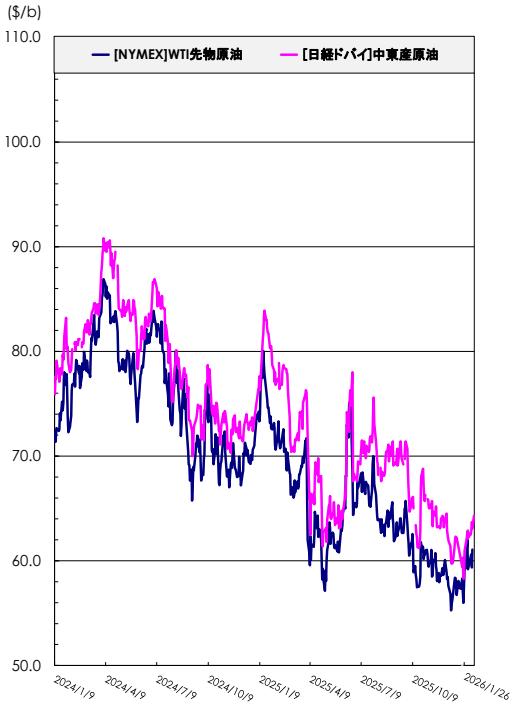
対ドル為替レート（TTM）は、前週（1月15日～21日）157.55～158.77円の範囲で推移したが、当週は、1月22日158.27円、23日158.62円、26日154.85円、27日154.33円、28日152.47円だった。

財務省が1月29日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格は67,304円/KLで前旬比875円/KL安、ドル建てでは68.50ル/Bで前旬比1.12ドル/B安、為替レートは1ドル/156.21円。

そのような中で、1月26日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.7円高、軽油も同0.8円高、灯油は同9円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は155.4円だった。

ガソリンの補助金は、12月31日、旧暫定税率の廃止と同時に廃止された。引き続き、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円の補助金が支給されている。

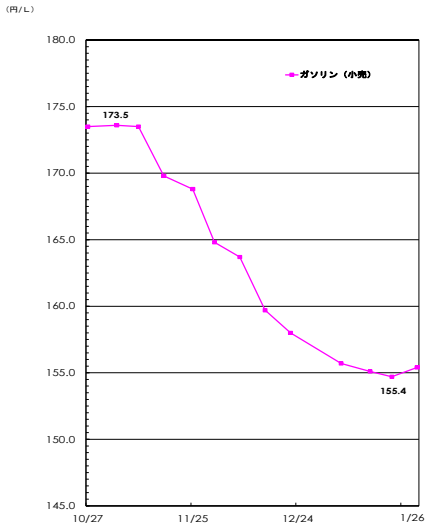
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	1/18 ~ 1/24	3,013	▼ -20	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	87.0	▼ -0.6	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	1/24	9,251	▼ -272	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	1/27	64.30	▲ 1.70	▼ -16.0
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	1/26	60.63	▲ 0.29	▼ -12.5
	原油CIF単価	（$/bbl）	12月下旬	69.62	▲ 0.36	▼ -6.95
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	68,179	▲ 328	▼ -5,248
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	155.71	▲ 0.05	▼ -3.25
	外国為替TTSレート	（¥/$）	1/27	155.85	▲ 2.70	▲ 0.75



（単位：千kl、円/リットル）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/24	1,719	▲ 55	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	1/20 ～ 1/26	83.0	➡ 0.0	▼ -4.0
		（TOCOM/中部）	1/26	－	－	－
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	1/26	155.4	▲ 0.7	▼ -29.7

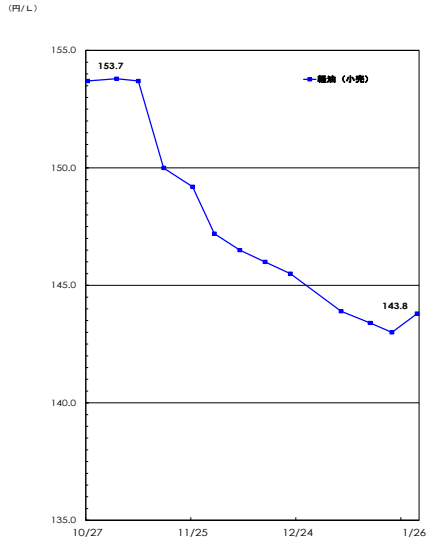
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

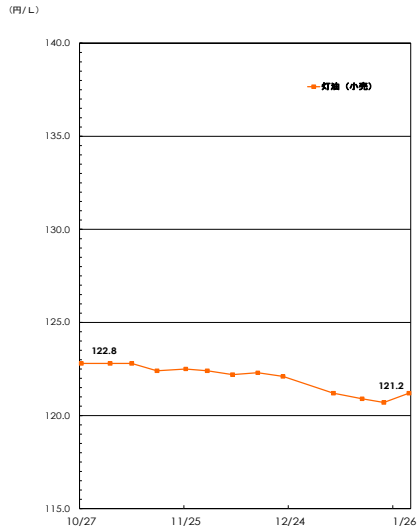
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/24	1,627	▲ 12	▲ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	1/20 ～ 1/26	70.4	▲ 0.7	▼ -18.0
		（TOCOM/中部）	1/26	－	－	－
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	1/26	143.8	▲ 0.8	▼ -20.9

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/24	1,931	▼ -69	▼ －
価格	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	1/20 ～ 1/26	83.0	▼ -1.2	▼ -5.0
		（TOCOM/中部）	1/26	－	－	－
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	1/26	121.2	▲ 0.5	▼ -5.7



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（1月15日～21日）のNYMEX・WTI先物市場は、59.44～62.02ドルの範囲で推移した。

当週1月22日は、米国・イラン間の緊張は一段落、落ち着きつつある中、ウクライナ停戦をめぐるロシア・ウクライナ・米国の3者高官級会議を23日・24日に、アラブ首長国連邦のアブダビで開催することが決まり、グリーンランドの米国による領有問題についても、トランプ大統領は武力行使は望まない、25%の追加関税を撤回すると発言し、緊張は緩和した。この日発表の米国石油在庫週報は、原油石油製品とも予想を上回る積み増しとなり、需給緩和感は拡大、反落した。3月物終値は前日比1.26ドル安の59.36ドル。

23日は、カザフスタンのティンギース油田の停電による操業停止が続く中、イラン情勢をめぐり、米軍のエイブラハムリンカーを中心とする空母打撃艦隊がペルシャ湾に向かいつつあるとの報道があり、緊張は高まり、反発した。3月物終値は同1.71ドル高の61.07ドル。

週明け26日は、先週末の高値を受けた利益確定売り、また、ティンギース油田の操業再開見込の発表があり、反落した。ただ、先週来の米国の豪雪・寒波による需要拡大観測もあり、底値は固かった。直近の3月物終値は0.44ドル安の60.63ドル。

27日は、ティンギース油田の操業再開には時間を要するとの見込であり、米国内では歴史的寒波の襲来で、暖房油需要は急増しており、天然ガス価格も30%高騰、需給ひっ迫懸念も出てきており、反発、昨年10月上旬以来3か月半ぶりの高値を記録した。3月物終値は1.76ドル高の62.39ドル。

28日は、カザフスタンからの原油出荷の停止を続く中、トランプ大統領は、イランに空母打撃群が向かっていると発言、核開発阻止を主張、緊張が高まり、さらに、この日、前週末の米国内の石油在庫は、大寒波の襲来を反映して、予想を上回る取り崩しとなった結果が発表となり、続伸した。3月物終値は、0.82ドル高の63.21ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）が、一日遅れの22日に発表した、1月16日現在の米国在庫週報によれば、前週比で、原油360万バレル増、ガソリン600万バレル増、中間留分330万バレル増と、いずれも積み増しとなったことで、需給緩和感が高まった。また、28日発表の23日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週比230万バレル減と、市場予想（180万バレル増）に反する取り崩し、ガソリン在庫も20万バレル増と、予想（100万バレル増）を下回る積み増しで、米国需要の底堅さを感じさせる内容だった。

EIAによると、1月26日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.7セント高の1ガロン2.853ドル（117.3円/㍑）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格も、前週比9.4セント高の3.624ドル（149.0円/㍑）と2週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、1月23日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の411基であった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、1月18日～01月24日に休止したトッパー能力は13.8万バレル/日で、前週に対して6.6万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は301.3万klと、前週に比べ2.0万kl減少。前年に対しては32.0万klの増加。トッパー稼働率は87%と前週に対して0.6ポイントの減少、前年に対しては9.2ポイントの増加となった。

4　国内/製品在庫量

1月24日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、軽油は積み増し、灯油、A重油、C重油は取り崩しとなった。

ガソリンは171.9万kl、前週差5.5万kl増。前年に対しては9.6万kl少ない。

灯油は193.1万kl、前週差6.9万kl減。前年に対しては9.5万kl少ない。

軽油は162.7万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては3.4万kl多い。

A重油は78.1万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては2.2万kl多い。

C重油は169.5万kl、前週差4.8万kl減。前年に対しては1.3万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (1/24)	前週 (1/17)	前週比	
ガソリン	1,719	1,664	▲ 55	(3%)
ジェット燃料	752	736	▲ 16	(2%)
灯油	1,931	2,000	▼ -69	(-3%)
軽油	1,627	1,615	▲ 12	(1%)
A重油	781	809	▼ -28	(-3%)
C重油	1,695	1,743	▼ -48	(-3%)
合　計	8,505	8,567	▼ -62	(-0.7%)

5　国内/元売会社製品卸価格

1月20日～26日のドル建て中東原油価格は前週比わずかに値上がりしたが、為替レートの円高で、1月29日からの元売会社の卸建値はわずかに値下げされたものと見られる。

揮発油の補助金は、12月31日、旧暫定税率（現：当分の間税率）と同時に廃止となったが、他の補助金は、軽油が17.1円、灯油・重油が5円、ジェット燃料が4円で据え置きだった。

6　国内/製品小売価格

1月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円高の155.4円、軽油も同0.8円高143.8、灯油は18㍑ベースで同9円高の2,182（1㍑ベースでは同0.5円高の121.2円。ガソリンは11週ぶりの値上がり、軽油も11週ぶりの値上がり、灯油は5週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは41都府県、横ばいは1県、値下がりが5道府県だった。全国最安値は愛知県の148.0円、その次は宮城県の148.4円であった。他方、最高値は鹿児島県の165.7円。最も値上がりしたのは山形県と富山県（前週比2.6円高）、逆に、最も値下がりしたのは佐賀県（同2.6円安）だった。

次回調査時（2/2）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(1/26)	前週　(1/19)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	155.4	154.7	▲ 0.7	2023/9/4 2025/4/14	186.5
	灯油	121.2	120.7	▲ 0.5	08/8/11	132.1
	軽油	143.8	143.0	▲ 0.8	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2025第43号）の公表は、2/6（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。